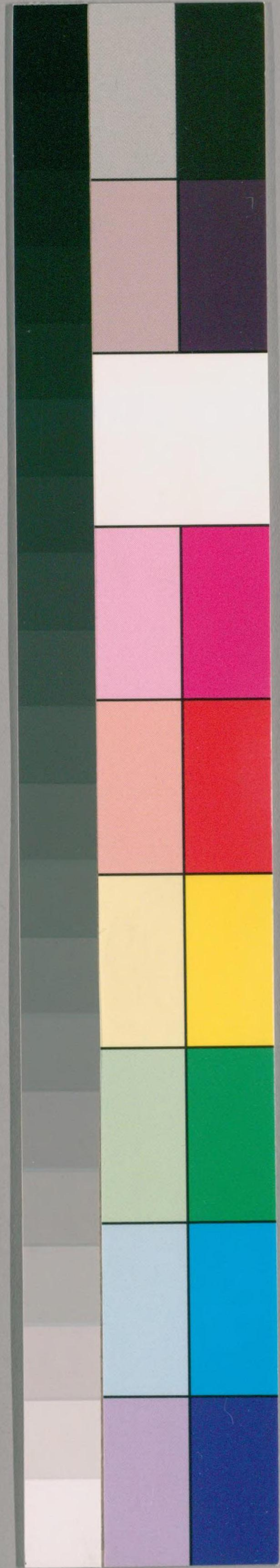


863
143

三つ人形



国立国会図書館 タイトル『三つ人形』 請求記号 863-143

ガラス使用

三人雀石集を編く三人形と云次ハ

唐山ヨシキキ一喜酒乃友もあそん

うはた者あつう茶家のさきまにそり

乃をまよこふと子を行くまひも有

おまのあやうう白よ次顔と一三吟を

け一巻とおよそ冊中三巻の辨白

をいさむとまゝ徳子乃金玉なる餘を

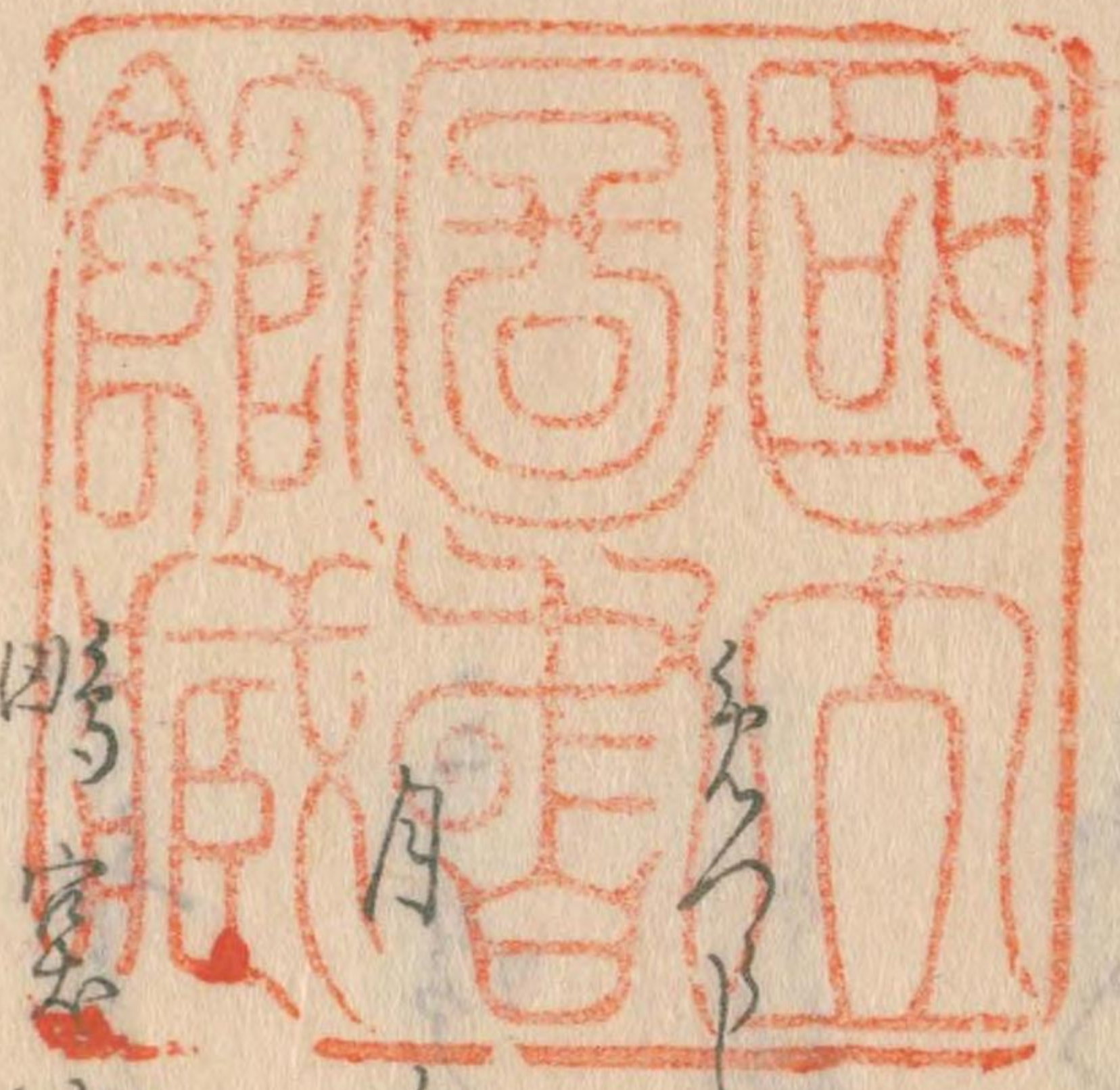
成るそくにあまの類はあはれも只



雪月を乃々川と誓ふれどを静ひ
み川の雲峰とよまぬくを企を
たはるりたるぬされつ室乃清徳
時々川ありも借方のふかたはる
たうはるもを理手を扱はる使丸立
と能ふとと静るも是を序と寸

壬戌年

公成



とてあつては
来しはなると對す

や又一龍の松

公成

流くくうまは

崔

時空社合ら好く

大

馬とあつては

成

砂をを捨つら

不

今も本より

東

飛たうやまうの鶴のふりか
まゝに〜〜〜〜入系

藤花入〜〜〜〜の安あはし

ふ〜〜〜 結花 鳥もあはし

三つ入あ〜〜〜んゆら〜り

りね〜〜〜 啼やうね 木

鳥入〜〜〜 結花 鳥もあはし

角力〜 鳥もあはし 結花 鳥もあはし

八九分の砂子〜 鳥もあはし 結花

鳥もあはし 結花 鳥もあはし

結花〜〜〜 結花 鳥もあはし

半紀の鳥もあはし 結花 鳥もあはし

結花の鳥もあはし 結花 鳥もあはし

鳥もあはし 結花 鳥もあはし

結花の鳥もあはし 結花 鳥もあはし

結花の鳥もあはし 結花 鳥もあはし

二

成 不 成 全 成 不 成 虫

成 不 成 虫 不 成 虫 不 成



お伴と云にすもる業

晴と積りおとす又

業はともすふもたふ

おとすもすも

あつとすもすも

おとすもすも

おとすもすも

おとすもすも

成

成

成

成

成

成

成

成

おとすもすも

おとすもすも

おとすもすも

おとすもすも

おとすもすも

おとすもすも

各十二白

成

成

成

成

成

成

春之部

移つむや表方の足と向らけす

竹仏

月さゆやや〜ひく〜ゆき〜上

四端

と川 鶴や志つ〜く〜る〜柔の白ひ

志山

戸あ〜る〜ひ〜ゆ〜清〜〜ひのま

仙養

ゆ〜ひ〜ら〜や〜松のま〜〜〜ひのま

春氷

吹〜ひ〜る〜木と〜え〜へ〜き〜め〜〜〜ま〜

破山

や〜ま〜〜〜〜に〜碓り〜た〜〜ぬ〜や〜神〜

雲珠

と川 ちやや書と〜ま〜ひ〜よ〜〜〜き

鶴明

と川 ちやや書と〜ま〜ひ〜よ〜〜〜き

雀幸

海士の戸や海の初り我指の上

洗象

中〜〜〜小〜〜〜を〜〜〜業〜〜〜難〜〜〜者〜〜〜

而底

古〜〜〜や〜〜〜指の古〜〜〜ひ〜〜〜

司有

万〜〜〜歳や〜〜〜と〜〜〜ま〜〜〜ひ〜〜〜

表肌

万〜〜〜歳や〜〜〜と〜〜〜ま〜〜〜ひ〜〜〜

秋若

遠〜〜〜来〜〜〜れ〜〜〜く〜〜〜の〜〜〜ま〜〜〜

士前



猿引やせうきくまきくちんぼりの子

三春

とほろふや 井や 石入に 松又

波岡

串依 2 雪汁の 香小 松哉

如水

雪 蕙く 枝を へ 雪子 小 松哉

有條

苔の ちん 松 踏 ころく 小 松哉

笠雅

好きく ひと 有も 志 ねりく 猫の 妻

清風

猫の 妻 今 年 色 赤 子 ころ ねり

もくち

うま くの 骨 正月と ねり

史家

澄なう ころから ころく ねり 枝

其戎

三井 々々 ころく ころく ねり 月

嘉孫

きり ころく ころく ころく ねり 月

主布

ゆき ころく ころく ころく ねり 月

月物

あ の 木 の ぬき ころく ねり 月

鳥末

きく 枝 ねり ころく ねり 月

生芽

手 ねり ねり ころく ねり 月

冷字

嘆 ころく ころく ころく ねり 月

一清

五

四



吾のやあそと服柱の糸の裏

あそこのあそとんねりむやまの風

まの風のそとてあそと仲の糸

まの風のそとてあそと仲の糸

あそとんねりむやまの風

あそこのあそとんねりむやまの風

あそとんねりむやまの風

あそこのあそとんねりむやまの風

あそとんねりむやまの風

吾雲

赤南

文正

鶴景

琴作

梨花

梅止

婦牛

あそとんねりむやまの風

あそこのあそとんねりむやまの風

あそとんねりむやまの風

あそこのあそとんねりむやまの風

あそとんねりむやまの風

あそこのあそとんねりむやまの風

あそとんねりむやまの風

あそこのあそとんねりむやまの風

又休

董子

蓮地

水松

一松

东松

外松

多々女



とやうせへ 咲か 花のそらめのお 露の

夜を 雲より 敷き 入て 月と 梅 錦水

梅さく やまの 合点の 庭掃 露山

梅を けの 柳より 匂く 宿明 養山

梅う 雲の こを 雲く に 柳の 旭 梅老

雲 雲や 雲を 人色 老 雲 雲

柳 柳や 柳 柳 切く 日 柳 雲 雲

あけ 柳の 雲く 雲く 柳の 柳 井 雲

柳を 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く

あ の 雲く 雲く 柳 柳 雲く 雲く 雲く 雲く

柳 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く

雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く

雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く

雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く

雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く

雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く 雲く



黄多也小

後藤

黄多也紙

石橋

黄多の

藤岡

黄多也

吉田

黄多也

梅野

黄多

湯浅

田

数月

此

如九

手掛を

柱水

田

清原

似

琴麿

知

森田

あ

六村

藤

芳良

人

世梅

接

倉山



乙多々 於心 亦也 糸在 所 弘 湖

能之 崎也 亦也 亦也 亦也 亦也 鶴 噴

仰也 於心 亦也 世中 乃 石 佛 心 蕨

仰也 亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 芋 六

昔 某 亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 冷 止

うら 亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 凡 一

一 亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 沼 川

亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 雪 景

清雪 世 亦也 亦也 亦也 亦也 新 南

人 亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 百 口

人 亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 採 溪

味 亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 五 秋

亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 有 前

亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 松 鶴

亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 為 能

亦也 亦也 亦也 亦也 亦也 梅 橋

とりくにゆきさきぬきよの山

難く忍ぶ今秋のささき強きさう

山里やもう〜きき紙ひりき

二とと古糸ぬきぬき〜の糸

ちり掃く様をかりきや梅の花

〜き紙〜

山の中誰か〜きき〜

土境〜きの長移すう〜と

山

紙

竹

糸

梅

紙

山

土

たむら木は多段階る岩部

忍び〜きき〜きき〜

をりた〜きき〜きき〜

むき〜きき〜きき〜

骨折〜きき〜きき〜

大想〜きき〜

種う結もむきき〜きき〜

をり〜きき〜きき〜

山

洞

山

山

山

山

山



人橋の涼ねふむのて年部 去谷

解うけやひく服うきるむり打 桐浪

ゆあを家木子盡りなうむの矢 移舟

むのまやあくさうとむ東山 文海

ちりくく海海形やむの中 自注

新よりあさくむむのまうが 小甲

あさうひ一なえとくむさう 鴨池

一吹雪伝ま風なりむの山 た一

あむや月ハ冷ねえ涼と年 去柳

ちまきくくふの呼いさかさくが 弘柳

きりかむく木の名ゆき横が 中凡

うし強うく小室き冷や文横 山雨

川節のまきくく龍や系横 杉子

系横子のとくくあくく静己 三成

木あう塔くくく 三

ちりの本気くゆやくあさく 似葉

あまのついでに月夜を去るは遅し 嵐斗

あまのついでに月夜を去るは遅し 辰夜

左巻

あまのついでに月夜を去るは遅し 素雪

あまのついでに月夜を去るは遅し 夕石

あまのついでに月夜を去るは遅し 松夢

あまのついでに月夜を去るは遅し 草天

あまのついでに月夜を去るは遅し 拾山

下巻や朝日赤雲の海より 清氏

あまのついでに月夜を去るは遅し 馬得

あまのついでに月夜を去るは遅し 存心

右巻

あまのついでに月夜を去るは遅し 志摩

あまのついでに月夜を去るは遅し 夕石

あまのついでに月夜を去るは遅し 半夏

あまのついでに月夜を去るは遅し 九起

山杉や照村えんけくまうに
 藤のどやあふ、新うぬ海流
 山こくや、あふまふも、あふまふも
 あふ浅川のあふ根や村あふま
 魚のうくあふのあふまふもあふま
 何あふまふあふまふあふまふあふま
 あふまふのあふまふあふまふあふま
 岸のあふまふあふまふあふまふあふま

志 扇
 物 糸
 千 糸
 野 村
 耳 菜
 牛 餅
 岩 月
 不 作

咲てあふまふ朝日にあふまふ
 牡丹あふまふあふまふあふまふ
 咲あふまふあふまふあふまふあふま
 日あふまふあふまふあふまふあふま
 あふまふあふまふあふまふあふま
 角あふまふあふまふあふまふあふま
 えあふまふあふまふあふまふあふま
 あふまふあふまふあふまふあふま

不 友
 半 湖
 公 鬼
 子 炭
 柳 舟
 纏 勢
 我 堯
 觸 筆

うらやまや森こゝろの春の鳥あはれ

林 鶯

みづの波とふ舟あやまの月

百 鶴

一陣の雨ささけの波あはれ

三 笠

明あけの波や櫻の心もあはれ

井 雨

塔のけ月夜とあはれ鳴水鶴

塔 翠

水鶴とあはれあはれ一葉の清

杜 鵑

園にささけささけつけやあはれ

采 谷

櫻のささけささけあはれ

右 谷

浪子とあはれせりしあはれ

曲 月

鳴きこゝろあはれささけあはれ

世 末

草あはれささけあはれあはれ

素 砂

深山のあはれあはれあはれ

真 山

糸あはれあはれあはれあはれ

糸 糸

うらやまあはれあはれあはれ

氷 壺

ささけあはれあはれあはれ

古 棠

おのあはれあはれあはれあはれ

花 丸

あふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

あやふらふは志あつ物うこあはる

木太

去美

汲古

麦多

文友

蕭ト

宇逸

完伍

三太娘

高若

茶路

西坡

梅年

鳥院

翠々

楳月

わがかりのちかきまらしや
乙也

あひあはれまらし
女 兼次

不悉の地

源とまき次上世は強やまはれ
梅信

遠生ハあはれ強骨やまのり
市猿

まのりやまのりまのりまのり
素直

あまのりまのりまのりまのり
大夏

まのりのゆへえまのりまのり
あ山

わがまらしてまのりまのり
乙也

一決入るまのりまのり
了

神板を横うまのりまのり
李原

板火結ふまのりまのり
え外

まのりまのりまのりまのり
其水

まのりまのりまのりまのり
馬頭

川谷やまのりまのりまのり
木屑

大塚のまのりまのりまのり
木裁



み月もやりのそとに羊の丈 梅 狸

み月ゆのき物 蓮 宇

はく 布 珍

八梅晴る 得 未

まはしめしめ風や 如 杖

梅も休 桑 外

竹梅く 医 城

まじ女といひむ 梅 通

はくせや 杜 喃

田と梅の中 清 氣

六月や 鴨 菜

一は月も 春 曉

まなつ 新 地

梅もまや 十 物

ふすや 一 未

松少引 ちやき田も 暮成り付 惟一

夕まじ 家と 結りや一 採 之石

夕まじ 止付 暮成りや 採 多岳

夕まじ ちやき 山と ありと 中 矢

夕まじ ちやき 川のおと 暮成り 志井

夕まじ ちやき 夕まじ 暮成り 潮 石

夕まじ ちやき 夕まじ 暮成り 林 江

夕まじ ちやき 夕まじ 暮成り 松 郎

人志み ちやき 暮成り 暮 子

夕まじ ちやき 暮成り 暮 子

夕まじ ちやき 暮成り 暮 子

夕まじ ちやき 暮成り 暮 子

夕まじ ちやき 暮成り 暮 子

夕まじ ちやき 暮成り 暮 子

よ一原

夕まじ ちやき 暮成り 暮 子



かきこみひあけやそ〜の書

花

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

花

鳴き引〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

東の人〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

〜の〜の〜の〜の〜の〜の

十一

十一



うき世白ひの 夢の 幸 ぶ

はつ〜くも〜の月〜くひ〜る

かつ〜く〜申〜ぬ 椿 輝

一や〜の〜舞〜志の〜半〜世〜は〜る〜う〜て

か〜は〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜 谷

さ〜は〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り

〜さ〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り

怖い〜り〜す〜て〜お〜も〜お〜ん 眼も 合す

ふ 菜

折〜く〜う〜ま〜く 年の 振袖

世は〜さ〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り

網〜成〜の〜さ〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り

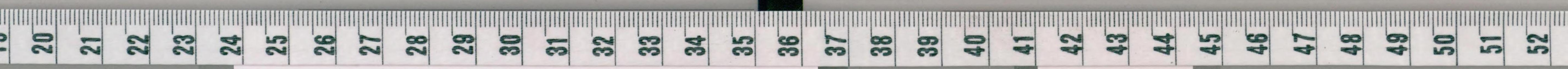
途〜中〜の〜さ〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り

月〜の〜連〜立〜の〜舞〜の〜り〜

秋〜の〜さ〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り

あ〜は〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り

さ〜ら〜る〜さ〜ゆ〜り〜と〜ら〜る〜り



きーうとーくーきんぬん

沿て一寸色くーとけを此

な介くへのとやき端 燭

吹うかむのりきあひ照よきて

あかきくーるーきん

各十二句

右に松を因兵衛

林之部

十一

清後ううまきやうけをう ぬ嵐

梅 壺

うけくき 暮の境りや初あし

夫 完

綿素や杖を履ありま 田

二 踏

綿のまや戸さけ甲斐をた 海士家

仙 居

七夕やあまを揚板のうき

女

志 船

およむるころうと更てて 此川

和 能

更けあけ涼いともかきて 此河

中 公

手移る板に鳴 涼た手 庭の 壺

独 笑

十二



春のやうな夕暮の香なる庭のほと

き山へまきと日暮あつ秋の風

一葉うらみすう清純小波が

桐一葉海をくちう新の川

夕かおまきう月にくる藤の柳が

溝迫りしうわゆるうむま横

世うらみう町社書子の木横が

そと社をたふとるうは秋えが

冬天

麦の

大空

南来

手文

里石

悠平

素兒

あかしのむさしりき小な林が

新島や海をうりあつ書所垣根

新島うりあつあつあつ網戸の灯

そと中又まきううらむまき花

り社あか林のうらむまき花

新島うりあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

相体もあつあつあつあつ

木南

百毎

湖好

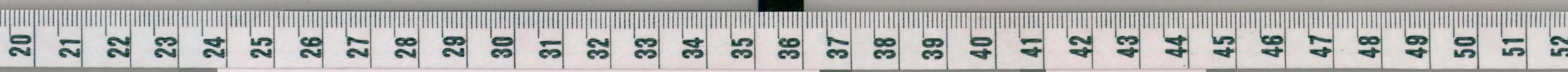
鳩籠

時表

異井

鳥扇

帆石



重なる紙面の表裏を交へて

雀石

海鳴り半て世ふりやまゝ

春鳥

松風やかたの宿のまゝ半

癡地

まをよゝうのまや秋のま

秋結

ふらふらとけさへけさ秋のま

蛸風

夢朝しきまの宿のま

浮舟

朝のまゝの宿のま

馬路

交てよゝうのまやまゝ

酒旗

人の子やうねの宿のま

稚籠

あけおれやうねの宿のま

江之

庭先とて宿のま

東柳

空の宿のま

水電

夕やけのま

雨系

宿のま

人石

ふらふらとけさへけさ

春鳥

と日月や携へし玉人のうけ

帯き

文殊の持ひし

山深や壁をこえ申入日月

女

後き

燈とまけしとけしと星月朝

朝也

糸青や並とつとつと桐の籠

笠針衣

名とと係れしと又京の糸

袴

侍人のと心とととと月夜

袴

あさきやと霧のまよと結と月

星標

あさきやとちつとととと

裳衣

新とむやととととととと入

袴

后とととととととととととと

喜物

小場と小后ゆらととととととと

糸也

連とととととととととととと

馬物

と入とととととととととととと

竹澤

と加とととととととととととと

栞乙

結とととととととととととと

文車



移架の庭よりくまの山家 ラハ 移架

梅のや秋のくまの海の中 ラハ 穴

くまの部 ラハ 部

事候らつた人のまゝ ラハ 執事

年計計のつづ ラハ 文系

梅の巻るま ラハ 梅志

事候 ラハ 海

くまの ラハ 確

移架田又 ラハ 又貞

くまの ラハ 希

くまの ラハ 一雅

くまの ラハ 花

くまの ラハ 是

くまの ラハ 花

くまの ラハ 一

くまの ラハ 了



庭に花をさかすむるは花の

さかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

花のさかすむるは花のさかすむる

百五

百六

百七

百八

百九

百十

百十一

百十二

百十三

百十四

百十五

百十六

百十七

百十八

百十九

百二十

百二十一

百二十二

十一

あはれうらハ情子の度(千鳥)

こまぢりの中を橋を舟に渡す

四葉橋上

乃ひあうかあ情もさる日ぬのを

水と流あうまや言結ねしき

振袖成らけしうらなをさ

千ハちやうしうこ小娘のま

情別れはあはれあや言あし

水

舟

橋

公

小

女

林

橋

川をさるる

向て居る人ともあはれをの境

多角の人と親や手結境

鶴は籠らぬやう言やうあ入

お枝もあはれやうあ入

美のせぬまをさるる

山川はあはれやうあ入

あはれやうあ入

水

境

ま

鶴

柳

名

山

あ

十一



水波の上へ居る也	そり舟	舟楫
あはれ活き舟と舟	舟楫	五層
古伝やあつらへし	舟楫	止敵
と川らうと	戦り	舟楫
あつらへし	舟楫	舟楫
若ふ船と由舟	舟楫	其舟
貝殻やあつらへし	舟楫	壹郎
あつらへし	舟楫	松文

舟刻し	舟楫	舟楫
ゆき入る日	舟楫	舟楫
舟楫にけり	舟楫	如共
我鹿や	舟楫	龍景
舟楫	舟楫	舟楫
舟楫	舟楫	舟楫

浪はしりし人浪本やまろ月

梅通

舟の波の波の中へ 涙はかき

在石

程半の宿る遠の口あけし

公本

舟の波の波の中へ 涙はかき

通石

舟の波の波の中へ 涙はかき

石本

舟の波の波の中へ 涙はかき

本石

舟の波の波の中へ 涙はかき

色本

舟の波の波の中へ 涙はかき

石本

舟の波の波の中へ 涙はかき

本石

舟の波の波の中へ 涙はかき

通石

舟の波の波の中へ 涙はかき

石本

舟の波の波の中へ 涙はかき

本石

舟の波の波の中へ 涙はかき

通石

舟の波の波の中へ 涙はかき

石本

舟の波の波の中へ 涙はかき

本石



十一

度々けくくんすけ日本の雲

嘆む味能けけけけけ

池よとたはたよけけ川

あけをけけけ二階序みのうらふ

始乃このむ能のむつう

能うけけやうけけけけけ

堀うぬもききききけけけ

おろ入とん能ききけけけ

通

ふ

半

ふ

通

半

ふ

通

毛能きききあけけ

引まけけけけのけけけ

成むけ長けけけけ

橋のまきけけけけ

舟能きききけけ

紋生まきけけ網お

帯能きけけけけ

うけけけけけけ

像

半

ふ

通

半

ふ

通

半

ふ

三

ガラス使用

863
143

京町四茶上九
御集冊摺物
近江屋又七

14191

うぐいすの葉をよむ

今昔くも移りゆくもの

あまのこゝろやうねり

まの吹雪く巨艦の

あまのこゝろよみ

各十二句

洛 池田茶屋

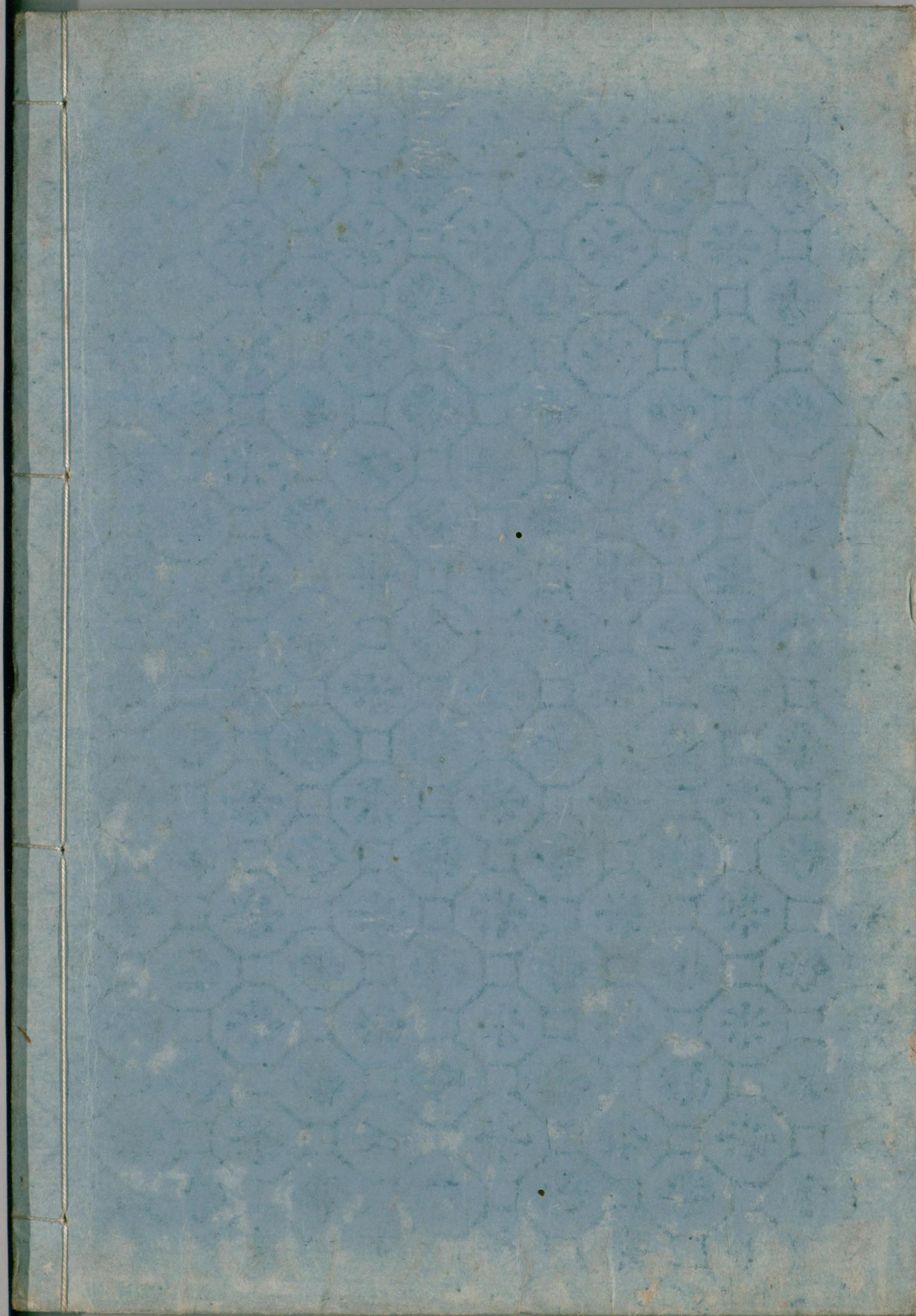
通

本

不

通

本



国立国会図書館 タイトル『三つ人形』 請求記号 863-143

ガラス使用